をすればいいかということでしかない。

ですから，何気なくＰＡ，ＰＡと使っている，進める方も受け取る方も受け取っていますけれども，やっぱりこれ好きじゃないですね。

私たち，少し勉強した仲間なんか，失礼だと，パブリックよ受容しろ，受け取れよと，こういう感じが見えるから。だから前のようにまだＰＲの方がいいと言うんですよ，パブリック・リレーションズとかね，あるいはアクセプタンスじゃなくて別の言葉を使って，パブリック・インフォーメーションとか何かいろんな別な言葉があるだろう。アメリカから来た言葉なんんだから，日本的につくったらどうかと，随分意見があるんですね。安易にこれ，使いたくないんですけれども，こういうＰＡであるとか，それも刈羽に伺ったときもお話の中に若干出てきました。

そういう姿勢が，もうそこの段階で，国民よ理解しろみたいなところでもう拒否です。もし進めようとしても。

だから私は，それは進めようが進めまいが，こういう言葉を使う限り，やはり無意識のうちに知らしめるとか，お知らせするとか，理解してもらうとかというようなことがあるので，それはまずいだろうと，それで今エネ庁の方でも検討委員会なんかでいろいろお話があったときに，私たちの要望もかなり入れまして，こういう言葉にしました。

ですから，市民参加懇談会の中は，この言葉が先にというか，原則として存在しています。「広聴広報」です。この言葉は，余り今までは使われていなくて，実は，この広聴がある新聞社で，私たちは広聴が先で，広報が後ですと言ったら，わざわざこう書き直してくれました。これは違うんですね。今まで公聴会なんていうと公に聴く会ということで，あくまでも官が仕切っているという印象が非常に強いという反対がありました。

私は，この「こう」も上の方の広くの方，何もそんな杓子定規にこうこう，こうこうこれを催しますということでなくて，公に聴くぞという姿勢はいいんだけど，聴いてやるぞじゃなくて，広く私たちが聴かせてください，ああ，あなたはこれをこういうことですか，あ，こういうことなんですかと聴かせてくださいというのがまず先だと，広くいろんなご意見を伺った上で，いや，そうですか，承って，実は私たちはこう思っているんです。そこで初めて交流ができて会話ができるという形になるので，今まではここの部分がとても足りなかったんですよ。

自分たちはやってるつもりだったんですが，いろいろ私なりに現地に伺って聞いてみると，いや，聞いてなかったと，一方的に来たけれども，はいはいと言って言ったらそれで帰っちゃったと。私たちが本当に言いたい声をどこに届けたらいいんだろうか，どこで発表したらいいんだろうかという思いがあったとおっしゃるので，まあ，これで十分じゃないにしても市民参加という形の中でそれが充足できればこんなうれしいことはないと，そういう思いです。

それで，原子力委員会の中で，市民参加懇談会というのを立ち上げました。私となかなか出てこない森嶌君と２人でやろうとしているんですが，私が今一生懸命やってるもんですから，私が主任みたいな形で動いてるんですけど，きょう，森嶌さんはベルギーかどっか行ってるんですよね。だから電話かなんかしなきゃいけないんですけど，電話代持ってくれないからもう本当に。

それで，一番最初に，１回目にいろんな方に出ていただきました。小沢遼子なんて面白い評論家もいますし，それからきのういらした吉岡先生も入っているし，中村政雄さん入ってないんですけども本当に消費者運動をやってる大阪の井上チイ子さんとかいらっしゃいますね。名前挙げれば切りがないんですが，屋山太郎さんという方もいらっしゃいます

し，本当にいろいろ，今まで原子力のゲの字も余りおっしゃらなかったけれども，実はおかしいなという思いのある方も入っていらっしゃいます。

そういう方と話し合ったときに，市民参加を具体的にどうやろうかという企画をしようじゃないかということで企画委員という名前になって，またそのメンバーが動き出したんです。これは私の考えで，今までは例えばシンポジウムなり懇談会やろうとすると，主催というのは１つなんですね。

もしこれが市民参加懇談会は，これは原子力委員会ですから，原子力委員会主催になるわけです，私たちがお聞きすると。私はそれは嫌なの，それは嫌なの。なぜなら，今までの賛成派の反対の集会でこうこうわわわとやると，今度は反対は反対でわわわわとやると，こういうふうに主催の思惑どおりに進むようなことですね。そのねらいが決まってますから，賛成派は賛成，反対派は反対，そのねらいをいかに遂げるかという結果があって，結果の上で成り立ってるというところがあるので，やっぱりそれは私は今までのやり方としては，よかった部分もあるかもしれないけれども，ちょっとそこで誤解がお互い生じちゃって，乖離してしまう部分があるから，それはやりたくない。

私が今お願いしているのは，共催です。この共催という形にしたい。簡単に言えば反対派というか慎重派というか，例えば原子力委員会みたいに，これはぜひ平和利用ですから，何か国のエネルギーのために幾ら風力，太陽やってもまだ足りないし，新しいエネルギーができるまでまだ間に合わないから，とりあえずリサイクルを含めてやろうという方針を国は立ててますという立場のグループと，それからもう１つ，いや，そんなこと言ったって，生活もう少しレベルを落として新エネの方に金を使って，今補助金を出してますけれども，金使って，もう少しやろうじゃないか，やりたいと，だから原子力要らないという派がいる。これと両方が共催という名前で立ち上がって，そしてお互い話し合いながら何月何日ごろやりましょうかとか，規模をどのぐらいにしましょうかとか，場所はどうしましょうかとか，そのときの司会はどうしましょうかとか，コメンテール，パネリストはどうしましょう，全部相談するんです。その上でやろうということを，この市民参加懇談会の企画メンバーの会議で申し上げました。

大体，おおむねいろんな現地に行った方がいいとか行かない方がいいといろいろありましたけれども，最終的に，２回目のときにまとまったのが，まずそれじゃ原子力の委員会ですから，原子力に関して一番課題を抱えたところ，あるいは世間で話題になったところ，そういうところに行って話を聞こうじゃないか。

ただし，その場で伺うのは，例えば刈羽に行ったらプルサーマル反対，どうしてということになっちゃうんですよ。それだったら結論が投票で出ちゃってますから，それはもう現実の問題として私たちは受け入れていますから，そうするとその上に立って，ただし課題が一番多かった，一番世間で話題になったところだから，じゃ刈羽に行こうと，刈羽に行って何を話すかというと，結果はこうだからみんなわかっていると。

そうすると，刈羽の投票した方たち，村の方たちは，日本のエネルギーの政策をどう考えるのか，あるいはもっと根源的に日本のエネルギーはどうあったらいいのか。その上にはまた暮らしはどうあったらいいのか。日本のことを考える話をしたいと，そういうことで意見を言っていただきたい。そうするとご意見あるいはいろんなお話が出てきたときにプルサーマルの話も出るかもしれません，結果として。あるいは核燃料サイクルの話も出るかもしれません。それもお互い話し合う，あるいはどんどん言いたいことを言ってください。まず，これが先だということでお話を聞きに行きました。

村長にも出ていただきましたし，きょうお見えになっていらっしゃる，あのときは吉田

さんがいらしたり，それから土田さんという方もいらしたし，それから守る会の女性の方の，きょう近藤さん，ご主人いらしていると思うんですが，あの奥さんもいらしていただきましたし，ただ，奥さんのグループは大変に真面目でいらっしゃるもんですから，真面目というか，今までのことに対しての不信感がすごくあり過ぎて，私も気持ちはよくわかるんですが，ちょっと残念でした。

というのは，同じ部屋の役場の会議室用意していただいて，村長にも出ていただいて，土田さんや吉田さんにも出ていただいて，それから私の方は，私と原子力委員会の事務方が１人と，それからそういうものを仕切っていただく事務方の，これは外部発注ですけれども，その方たちと伺った。そのときに近藤さんの奥様も参加していただくということで席用意してあったんですけれども，奥様の以外に４人いらっしゃいましたですね，女性の方が。いいかと言うから，どうぞと言ったら，その部屋のところでもう入らないとおっしゃったんですよ。

それで参加できない，木元さんだけ話したいと，これは大変うれしかったんですが，木元さんだけ話したいというので私，廊下に出ました。廊下に出て話したときに，ここの中に入れないと言うんですよ。でも私，話聞きたいんだけど，こういう共同開催で何でも今まで話し合ってなかったから，ざっくばらんに話し合おうと思うから，入らないと言ったら，いや，それできないと言うの。じゃ，入るためにどういう条件なら入れると伺ったら，核燃料サイクルの政策を白紙撤回するなら入ると言うんですよ。

だから，ちょっと待ってと，これはもう，国会で決まっちゃったことなんだと，だからこれは厳然としてあるから，もしこれは白紙撤回するならば，白紙撤回するまで待つと言うなら，いつまで待たなければならないか，入ってもらえるかわかんないから，実はそうじゃない，白紙撤回したいという声を中に入って言ってほしいと，それは公の場になりますから。

そのときに，私公開で全部そのプロセスを見ていただこうと思って，内緒じゃなくて全部言ってありますから，地元の朝日も読売も新潟日報も柏崎日報もＮＨＫもガーッと来てました。その方たちが撮影を始めたら，撮影は困ると言うんですよ，私と話してるの。どうして困るかと，これは私，何でもしゃべっちゃう，言わないでとは言われてないから言っていいけれども，もし私と話したりあるいはそのメンバーと一緒に会合を開いたとなると，反対している仲間を裏切ることになるとおっしゃるの。

私，この論理がよくわからないんですね。やっぱり反対であれ賛成であれ，対立する方たちであれ，一緒に話すということじゃないと前に進まないですよ。いいにつけ，悪いにつけ。

だから，核燃料サイクルやめろと言うんだったら，でっかい声で顔を出してほしい，恥ずかしくないことだと思うからね。だからそれが私は今までそうしたくなるような状況を，我々国を含めてでしょうけれども，つくってしまったのかなと思って大いに反省しました。

でも，私は近藤さんたちとも握手して別れましたけれども，１０分と言いながら３０分ぐらい話しちゃったんだけど，廊下でがあがあ，があがあ，大きな声もお互い出したこともあったけど「だから入ってよ中に，その声届けるためにも，ここに来ないと届かないじゃない」と言ったら「いや，これに入ってしまうと仲間になってしまうんだ」と，「仲間にならない」と言うんで，どっちが反対派だかわからないみたいな感じ，というような状況でした。

だから，ああ，ここまでお互いが信頼を失ってしまった部分があったんだな。だから最後は，私を信じてください，私を信じて出てくださいということ申し上げた。だから刈羽

で今度これから一生懸命開かせていただく努力を吉田さんや土田さんにお願いし，村長にお願いして一緒にやりたいと思っていますけれども，私は，第一歩を踏み出そうと思ってます。そういう意味で，今までなかった形のものを。だから御協力をいただきたいなと思うし，そういう意味でメディアも一緒に参加してくれてます，と私は思ってます。そういうようなノーマルな形で，どういう結果が出るかわかりませんよ。わからないにしても，やはり広くお話を伺うチャンスがなかったということを，反省を踏まえて開きました。

ですから，その女の方たちのグループも，きょうの企画会議と私たち称しましたけれども，企画して，どうしようか，じゃだれを呼ぼうか，どういう形にしようかという話し合いの席には着いていただけませんでしたけれども，当日開くときには，必ず行くとおっしゃってくださいました。

だから，参加してくださいますから，そこからいろんなご発言がいただければいいなと思うんですが，例えば１０人ぐらいね，パネリスト，市民参加懇談会で，サッカーで言うとホームで市民参加懇談会があるとすると，アウエイの柏崎刈羽に行って話すという形になって，できるだけサイトに行ってこういう懇談会を持ちたいと思っているんですね。ですから，それも話し合いで決めたいと思ったし，そのときに参加してくださる方は，サイトの方が５人ならばこっちも５人ぐらいにしようかということも工夫してますし，そのときに，参加している方から，声いただこうかというのも実はそこで決めたいんですね，企画会議の中でね。

だから，せっかく来ていただいて，お声が聞けるチャンスがつくれるかどうか，ちょっと問題ですけれども，それもできる限りお声を聞くチャンスをつくりたいなと思っています。だけど今までの旧態依然の反対派，賛成派の対立構造ではなくて，もっと冷静に，本当に村長が村の民主主義をという言葉をお使いになったけど，民主主義の中できちんと冷静に話し合う機会がこの中で持てればいいなと，こういうふうに考えているんです。

ですから，今刈羽をとにかく一番課題があるということで一番最初伺うと言いました。ですが，順番にその原子力の発電所があるなりあるいはそういう施設があるところは順番に伺おうと思っていますね。隣にもすぐ柏崎，刈羽はくっついていますから，それを刈羽よりも実は柏崎の人口の方が多いから柏崎でやった方がいいという声もありますけれども，投票をやったという意味で刈羽にまず決めました。その後で今度は海山町というのが出ましたけれども，これはまだできていませんから，是非論ですから，だけどできれば，これから政策をつくっていくところにも参加して行きたいんだけれども，実は政策を実行している現地の発電所のあるところ，サイトでそういう話をもう一度伺うチャンスをつくりたいと思っていますので，皆様のところにこれから伺わせていただこうと思います。その節はよろしく（発言する者あり）あ，行くからね，お願いします，いや，私の方からお願いします。それで本当にフランクに話し合いたいんですよ。ありがとうございます。ウエイですよ，もう本当に。

だから，そういうのなかったでしょう，今まで。だからやりたいですからよろしくお願いします。ありがとうございます。

ということで市民参加懇談会を立ち上げさせていただいて。だからこれだけやったら辞めるかもしれない，原子力委員会。脅しだけど。そういうことで頑張って，今まだやってます。いろんなところに行かせていただいてまたお話伺うと，本当に力強く思いますし，本当に生産地・消費地という言い方がありますけれども，同じテーブルでやらせていただこうと。

きょう，私，これ高いところでやらせていただくけど，本当はこれも嫌なの。今度の市

民参加懇談会は，刈羽の問題があるホールなんですけれども，ラピカというところしかないのよね。見に行ったらほんと立派。日曜日行ったんですけど，プールがあって，どっちかというと若い人余りいなくて中高年の方が本当に運動したりお風呂入ったりして，ほんと私も入らしてもらいたいと思ったんだけど，村民じゃなきゃだめみたいなんで，あれちょっと開放してもらいたいなと思うんだけど，それはさておきほんと立派。

こういうホールなんですよね。ここもすごく立派なんだけど，この演台下に下がります。ラピカは下がるのよ。（笑声）この演台がばっと平地に来るんですよ。フラットになるの。ここ半分ぐらいまでがね，坂でだだだだといすが自動的に出てくるの，これ電気使うの。で，こう来るんですね。ここフラットで，ここのこういうボックスの下に実はいすが１００個入っているんですよ。それを１回出して沈めてここに１００個並べるんです。円卓みたいに円卓に全部囲んで，周りを市民の参加の方たちが囲むという，フラットな状況でやりたいんです。だから，このホールちょっと無理かなあ，そすと。川内でやるときには。下がればいいけど。

そんなわけですね。そういう形で，例えば絵的にもそういう形でやらないと私はいけないと思っているわけ。高いところから「おわかりになります，エネルギーは」なんてやりたくないんですよ。

そういうことで，市民参加懇談会の話が長くなりましたけど，それから私がなぜ原子力委員会の委員を休職という形じゃなくてやってるかってことも何か言いわけっぽいんですけどさせていただきました。

もう余り時間もないんですけど，簡単にそのメディアとの関連ということを言いますと，難しいなという思いが実はメディアとの関連の中でいろいろありますね。

今，アフガニスタンの状況が入ってきますけれども，陥落したんだかしないんだかよくわかんないんですが，放送局がどういうところからニュースソースをもらっているか。アメリカからもらっているのか，あるいはカタールにあるアルジャジーラという中東のＣＮＮと言われているところからもらっているかによって，ちょっと傾向違いますよね。

だから，メディアから来る情報というのは，もうおわかりのように公正中立というのはあり得ないです。これは私はテレビ局にいたから，本人が言うんだから，こんな確かなことはないんですけど。例えばどういうことかというと，これは原子力報道だけというふうに限ってお話ししないでちょっと話さしていただきますけども，公正じゃないというのは例えば差し障りのないところで言います。

政治家もメディアによく出ますね，小泉さんにしてもだれにしても。小泉さんうまいと思う。きょうは，秘書の飯島さんという方が，あれはきのう話したんだと思うんですけれども，なぜ小泉さんの支持率が落ちないかという一つの理由に，メディアに顔を出してんですよ。メディアというのは何もテレビだけじゃないんです。新聞でも雑誌でもいろいろあります。

そのときに，今までの総理大臣は，例えばもういいかなあ，名前言っても。宮澤さんという方がいらしたんですけど，この間国連に行って，くたびれてたね，あの国連は。本当にもう，行かなくて，やっぱり真紀子さん行った方がよかった，あれ，私が思うのに。宮澤さんも立派な方だけれども，やっぱり。８０何歳で飛行機で行って，フーとこう，くたびれた感じが出てましたよ。客席，こう満席ならいいけど，いないじゃなかったですか，あのとき。もうがっくりきた，私。

その宮澤さん，総理のときに，あの方大変ご立派で政策通でいらしたりエリートでいらっしゃるというのがあるんですね。

私もまだニュースキャスターやっているときに何回かお会いしましたけど，やはりそれがにおってくるんですよ。それでお話で座談会なんかでやると，あの方ね，こう，腰が痛いのか，何か具合が悪いのかわかりませんけど，足短いのにね，小柄で。組むんです足，こういうふうに。（笑声）それで組んで体が組んで真っすぐ座ればいいんだけど，こうなるわけ。それでこういうふうになるのね。いつもこんな感じで座ってるんですよ。それが閣僚席にいらっしゃると，そういう形でこれが見えるわけですね。

出てきてお話になると，これはまたちょっとね，生意気ふうに映っちゃう。顎をくっと上げて，くっとこうなります。それで時々顔がフンと伸びる（笑声）そうするとね，宮澤さんが好きな人もいれば嫌いな人もいるの，報道の中でも，同じ局の中でも。あれは放送局ごとにも違います。宮澤さんを応援する何々テレビとか，大体わかると思うんですけど。それからどこそこ行く，Ａがつくテレビ局とか新聞社とかいろいろあるんですよ。ＹとかＳとかね。それによって，どういう角度から――共同取材なら違いますよ，共同配信の場合は。それでなくて単発的にその局の視点で撮る場合は違いますよ。

私はフジテレビにもいましたし，局はＴＢＳだったんですけど，フリーになってからフジテレビに行ったんですが，ＴＢＳなんかの報道で宮澤さん嫌いな人いたんですよ，若手の。そうするとどうでもいいような，どうでもいいというか，重要なテレビがばーっとムービーで出て，宮澤さんがこうなったりこうなったりしてんのが映っていればそのまま出しますけど，よく顔写真で出しますよね。総理がこう言いましたとかああ言いましたと。

そのときに引き出しがあって，どの写真を選ぶかというのがあるんですよ。そうすると宮澤さんもいい顔がありますよ，きりっとした。嫌な顔もあんの。こういうなっているあるんですよ。そうすると宮澤さん嫌いな取材の記者は「これ使おう」って，こうやる。（笑声）

それはもうそうするとね，主観がそこで入っちゃうんですよ。だから公正中立なんてうそ。そうすると，こう報道の中身よりも「あら，宮澤さん，嫌な顔して・・・」言ってることも全部悪くとられちゃう。

それは世論操作とオーバーには言いませんけど，操作できるんですね。それは単に印象的なものをつけることなんですけれども，放送局ではキープしているいろんなフィルムがあります。これは永久保存みたいな形ですけれども。その永久保存の中に１つ，さっきの橋本さん，負けたことがあったんです，幹事長やったときに。参議院選か何かで。そのときに，こう候補の名前が上がって，バラの花をピッピッとつけていきますね。そうすると，あのときは土井たか子さんのマドンナ旋風が吹いたときですから，土井さんの当時社会党か，社民党の土井さんが「やるっきゃない」なんてやってて，バラの花がつくのが写るわけですよ。自民党に来ると，橋本さんが，あの渋い二枚目風な顔が渋くなるから，本当渋くなるんだけど，しかもたばこをくゆらしてリーゼントがこうなっていて，ピエッピエッとこうもくもく，もくもくやってんですよ。

そうすると，今のテレビの取材から言うと，マイクとか何か，物すごく性能がいいんですよ。だからこれくらい離れているところでも，集音マイクでピンポイントで狙って拾えるんですよ。それをわかっていらしたかどうか。ピエーッとたばこ吸いながら「チキショウ」とこう言ったんですよ。（笑声）入っちゃった，マイクに。（笑声）

そうすると，自民党が何かまずいだとかそれから橋本さんのニュースが出る場合に橋本さん嫌いな人が何か橋本さんのことを出そうとすると「チキショウ」，これ使うんです，何回も。だから本当にうっかり言えないんですね。

原子力発電所のことで言えば，きょう東電の方がいらっしゃっていると思うんですが，

もう時効にはならないにしても，これは一つのメディア・トレーニングとかメディア・リテラシーという観点から，メディアとはこういうもんだよとわかっていただくために，現場にいらっしゃる方はそれなりに注意しなければいけないというお話でちょっとさせていただきますけど，福島第二で，発電所の中のこう止めてある座金が割れてストップしたという事故があるんですね。

そのときに東電の方が記者会見なさいました。大変立派な記者会見で，私は取材には行かなかったんですが，放送局にいたときに，取材してきたビデオ全部見ました。なかなかよかった。ところが最後の一言で全部ひっくり返っちゃった。

当時の担当の責任者，この方も大変すばらしい，私なんか尊敬している方ですけど，一言ミスした。この技術の責任者の方がこうこうこうで「多分今の段階でははっきりわかりませんけれども，座金の部分がちょっと欠損したんじゃないかと推察される。それが見つからない」と。「ですからこれ全部止めて点検いたします。事情がわかりましたらお話いたします。放射能漏れはございません」こう言ったんですね。

それで今度は担当の重役の方が，こうこう，こうこうで「大変ご迷惑をおかけいたし，国民の方に不安の念を生じましたことを深くお詫び申し上げます」。これで終わればよかったんですよ。そしたらご自分でやっぱり隣にいらっしゃる方，ふっと，「これで終わりです。申し訳ございませんでした」。終ったって気が緩んじゃったんですね。「ま，こんなとこだな」って言っちゃった。（笑声）これも入っちゃうわけよ。（笑声）

だから，アメリカで非常にこれ，大統領選なんかから，これはケネディーとニクソンの戦いのときからテレビというメディアは怖いんだというのは，そこだったんですね。うっかりもう終わったと思ってもマイク生かしてますから，私たちテレビ局は。その方が面白いんですよ本音が出るから。終わった後で「きょうは皆さんありがとうございました」と言いながら「ああ，疲れた」なんて言うのが入っちゃいますから。和田アキ子なんかよく入るわけだから。

そういうようなことがあるので，メディア・トレーニング，メディア・リティラシー，メディアについての読み書きはちゃんとわきまえてほしい，どの立場にあっても。

だから，いろんな事業者そのもの，国そのものじゃなくても，周辺のサイトにいらっしゃるこういう議員の方たちはインタビュー受けたりすることがあると思う。そのときに自分がメディアに対してどう対応するかというトレーニングをしていないと大変弱いことがありますよね。

今電力の話をしましたけど雪印の例があります。雪印でちょっと中毒事件が起きました。社長がやめなければならない羽目になったんですけど，その一言は覚えていらっしゃると思うんですが，雪印の中でエンテロトキシンという毒素が出た。それはいろんな黄色ブドウ球菌が繁殖してできる毒素なんですけど，それが牛乳から見つかって，みんな中毒症状，下痢なんか起こしちゃったんですね。

ところがそれがよくわからなかった，どこで発生したのか。実は，北海道で，これも電気に関係あるんですが，大樹というところだったかな，工場があるんですね，脱脂粉乳を作る工場，そこが停電になっちゃったんですよ。きょう北海道電力いらしているかもしれませんけど，でも電力が悪いんじゃなかったの，その工場に電力が送られてきている配線がありますね。そこにつららが屋根にできちゃって，つららがぶっち切っちゃったんですよ，その線を。つららが切るんですね，電線を。へえと思った。それがわからなかった。そしたらいきなり切れちゃったらしくて，とにかく脱脂粉乳を作っている工場が停電になっちゃった。それでストップしちゃったでしょう。

脱脂粉乳というのは，牛乳に熱かけて，簡単に言えば，それで粉にするわけだから，水飛ばして。停電になったもんだから生半化の熱を持った牛乳の半分粉になったようなのがそのまま８時間放置されちゃった。そしたらここでまだ菌が死んでないんですね。ここで何が起こるかということを末端の人がわかってない。それで回復したらそのまま動かしちゃったんですよ。そこで黄色ブドウ状球菌が繁殖してエンテロトキシンができちゃった。毒素ができちゃったという状況で出荷して，大阪にその脱脂粉乳が行って，それで作った牛乳が下痢症状を起こしちゃったと，こういうことなんです。その因果関係がわかるまで時間がかかったんですよ。

だから，大阪工場の再使用が悪いだとかいろんな話が出たんですが，その過程の中で社長は責任がありますから，雪印の社長はメディアの対応に応じました，新聞からテレビから全部。致命的だったのは，もうへとへと，朝から夜までずっと記者会見をやって，さすがの社長もくたびれちゃったんですね。それで記者団は，もうきょうこれで終わります。あしたまた会見しますから，よろしくお願いしますと帰るときに，ざっと追っかけて記者なんて来ますから，行ったときにエレベーター乗ろうとした。押さえて，「社長，あと一言」と言ったら，「勘弁してくれ，おれ，寝てねえんだよ」と言ったんですよ。「おれ，寝てねえんだよ」という一言が致命傷になっちゃった。そしたらその大阪の記者が「我々だって寝てないんですよ，それよりも下痢で苦しんでいる子供だって寝てないんだよ，あんたこの責任どうするか」それでプチンですよ。それで「寝てねえんだよ退職」とかなんかなっちゃった。(笑声)

そういうことで，メディアというのは，私たちが想像もしない結果をもたらすんですよね。ですから，そのことに対して国も発電所側もそうですけれども，その現場のここで議員をなさっていらっしゃる方たちを含めて，メディアにどう対応したらいいんだろうか。自分はそういうふうに言ったんではないんだけれども，そう取られてしまったということは多々あると思います。

それは，私がテレビをやって，今キャスターやめてますけれども，コメンテーターみたいなのやってますけど，一つのコツというのがあるんですね。イエスかノーを先に言っちゃうことですよ。イエスかノーを先に言わないで，本当はイエス，本当はノーだということがあって，それに行き着くまでの理屈を云々かんかん言いますよね。その理屈の云々かんかんを部分取りします。それで終わりにくっつけちゃいます。そうすると自分の意図しない結果がそこに出ちゃうんですね。そういうことが得てしてありますので，それは私の経験から，結論は先に出した方がいいと，質問に対しては簡潔に答えた方がいいと，そう思います。それが私からのメッセージということがあります。

それから，今度はメディアの側から言って，原子力に限定して申し上げると，原子力報道というのは，やはり反対して過激に「よくない」と言ってる方がクローズアップされます，その方がニュースですから。それでやはり反体制というのかな，それが報道の使命みたいなところがあります。いわゆる少数派に対して門戸をうんと広げてあげようというのがあります。

局によってその度合いが若干違いますし，このごろはそんなに極端に振れることはないんですけれども，それでもやはり「社会の木鐸たれ」みたいな言葉もありますし，何か反体制側に動く方がカッコいいというニュースキャスターもまだいます。心情的に同情はするんだけれども，私の立場ではそれは言えないという人も結構いますよね。

だから，そこのところも，受け取る側は，放送なり何なり見る方は斟酌して考えていかなきゃいけないんですけれども，うまいと思う人が一人います。久米宏さんなんですけど，

私はＴＢＳで彼は後輩なんですけど，彼はすごい才能がある人だと思います，考え方は別にして。放送というものをよく知っています。

彼は，反原発なんですが，でもね，ゴルフ場も反対とか言って，なぜ反対かと言ったら，殺虫剤をまくからだ，農薬まくからだと言うけど，あの人ゴルフしてんのよね。そういう矛盾も抱えながらキャスターは生きているんですよ。

我々が最近というか，私がやっているころからその言葉使い初めているんですけれどもカッコよくまとめたがります。例えばダイオキシンの問題にしてもエイズの問題にしても何にしても，まあエイズはああいう結果になりましたけれども，今硬膜の移植によってヤコブ病というのが起きて，厚生省がまた盛んでしたが，頑張ってやっていらっしゃいますけれども，そのときもやっぱり患者側に立つんです。何のときでも大体そういう構図になっていますね，少年法の改正のときでも少年の側に立ちますね。私はもうキャスター離れましたから少年法改正賛成ですよ。１８才でまるで大人ですよ，大人より悪い犯罪してますよ，強姦して子供殺して。それでぬけぬけと少年法で救われると思っているのは，やっぱりきちんとした責任をとってもらいたいという方ですから。

それはでも，私になったから言えるんで，放送局のキャスターは言えないですよね。どちらかというと少年法は，やはり少年のこれから先の更生の道がまだあるわけですから，少年法の改正は早いと思いますという側をとるわけです。だけど，殺される方の将来はどうなるかということだってやらなきゃならないでしょう。それはなかなか言わない。

それは，弁護士さんなんか大体そっちの方をとるわけですけれども，そっち側に行くんですね。私たちが，そういうキャスターのことを何と言うかというと，営業左派というんですよ。営業左派が結構いるということで，久米さんは本当の左派部分もありますけど，だんだん彼変わってきてますね。

最初原子力発電反対だと言った。彼も長いですから，２０年近い前のときに，ムラサキツユクサが，原子力発電所の近くにあるムラサキツユクサには変異が起こるという話があったんです。これは後で全くうそだったということがわかるんですけど，久米さんは，それをうのみにしちゃって，ニュースステーションの枠内でムラサキツユクサを配るという方策をとったの。みんな申し込んでください，鹿児島も申し込んだ，どこそこも申し込んだ，いろいろ毎日報道してます。１カ月だか，２週間か３週間置きに「報告をください。おたくのツユクサお元気ですか，変異は起こしてませんか」とやったんですけど，何にもなかったんですよ。

１年たつうちになくなっちゃったの，それが。でもそれ今黙っているでしょう，おかしいなと思うんだけど，まあ，機会があったらいつか言おうかなと思っているんですが，そういうふうなことが結構あるし，久米さんがダイオキシンのことも行き過ぎたことをやったんで訴訟になっちゃいました。

これは，大変に被害を及ぼすことを平気で言ってしまったということで彼も反省していると思うんですけれども，それはキャスターの責任になるんですね。放送局は，その人を雇ったという責任もありますけれども，放送局が阻止したのに言ってしまったということになれば，彼の責任になってくるんですが，このごろ久米さんがうまいというのはどういうことかというと，多分お気づきになっていらっしゃると思うんですが，キャスターとしても何か言いたいことがある。例えば原子力の発電にしても海山町でああいう投票があった。前に浜岡の事故がありましたから，私はああいう結果を予測はできるんですが，なぜ海山町の町長が，あそこに誘致をしたいと思ったか。

現状を見ると大変な過疎ですね。だから，過疎だから来てもらいたい，何か一つの産業

の形として来てもらいたいという気持ちがあっただろうと思うんですが，それがたまたま原子力発電所であったということで，いろんな反論があったと思うんですが，それに対してのこのごろコメントは出ないんですね。原子力に関しては。でも久米さんとしては，何か言いたいというときには，新聞には，これは全くわからないこと，テレビだからできること，ラジオでもわかりにくいことなんですけれども，どういうことかというと，何かニュースがありました，これを読みました，こうこう，こういう予想していたことかもしれませんけど，こういう結果が出たそうです。

しばらく間をとります。「ええ・・・・，次行くか」と，この間で，溜め息があって，形がこうなって，「ウーン，次行きましょう，ニュースなるべくお伝えします」と言われますね。この間は何か。これはボディーランゲージという言葉がありますけども，この間だとか，溜め息だとか，表情とか，悦ちゃんがいるから，よく「悦ちゃん，やるか，次」とこんな形で言うと，今のニュースを否定してるんですね。そういう工夫は，作為的なのか無意識で出てくるのかわかりませんけれども，うまいと思う。

私たちだって，何か質問受けたときに「はい，よろしいと思います」という前に，普通でも何かちょっとこだわりがあると「はい，エー，そうですね，はい，結構だと思います」と言うのと違いますよね。そのニュアンスがこのごろは出るんですよ。だからメディアというのは非常に怖い部分を持っているということなんです。

ですから，原子力報道に関して，きょう細かいこと余りお話ししませんけれども，その人，人柄も出てしまいますし，自分がそういう意味で言ったんじゃないということがそういう意味になって出てしまうし，だから自分の明確なことはきちんと言わなきゃならないし，だけども出たことに対してのフォローが一番大事だと私は思ってます。

出たことに対して，それがもし本当に困った情報であった場合，誤った情報，不勉強の情報，あるいはためにする情報，扇動的な情報と，こういろいろあると思うんですね，偏向的な情報もちろんあるだろうし，それから余り偏向と言うのは悪い方もいい方も両方あるんですけども，余りにも偏向しているのはまずいです。ですからそれに対しては，「大変報道で取り上げていただいてありがとうございました」と言うことは必要でしょうけれども「でもお出しになったニュースソースはどこからだったんでしょうか。私どもとしてはこういうデータしかないんですけれども，教えていただきたい」とか，何かそういうことがあると非常にいいなという気がするんですね。

だから，それがさっき言ったその市民参加懇談会でも言ったように，双方向というと簡単ですが，もっと深く，もっと広く，もっと繰り返し，お互いにコミュニケーションみたいなものをメディアとつないでいかないと，やはり誤情報は誤情報のまま，おかしな情報はおかしな情報のままで固まってしまうんです。

ですから私は，国に対しても電気事業者に対しても，それからもしそのおかしな情報を出したメディアに対しても，きちんとしたことを言える視線は常にサイトの方たちは特に持っていただきたいなと思います。ご自分が，その中を取捨選択してその正しい理解のようなものを持っていただかないと，メディアとうまく付き合えないし，また原子力がひん曲がった形，あるいは違う形の方に行ってしまいかねないという危険性を持っていますから，それはきちっと踏まえてお互いにいかなきゃいけないなと思っています。

そういうことに関しては，私はまだメディアで今火曜と木曜，生で出ているもんですから，何かありましたらぜひお手紙でも何でも結構です。いただければうれしいと思います。

それから，この市民参加懇談会についてもご意見ありましたら，こういう形の方がもっといいよというのがありましたら，ぜひご意見を伺わせていただきたいと思います。

最近でも，きのうおとといこちらに来る前の月曜日に，例の狂牛病ですけれども，狂牛病に関しての報道をやったときに，いかに違った情報が出てくるかというのがとてもよくわかりました。

ですから，狂牛病などに対しても無為に恐れるということが出てしまわないような情報の出し方というのはなかったかな。それから一回出てしまった情報を消しゴムで消していくのは至難の技なんですよ。ですから，いち早く，それが広がってしまう前に何か間違った情報が出たときには，もう初期消火しかないんです。出たとたんにさっとやるということをやってかないと。でも，国とか電気事業者の方たちにしてみれば，やっぱりトップの意見を聞くとかいろいろあるかもしれませんけど，何かどこかに広報のどこかに権限を付与して，間違ったものは間違ったもの，いいものはいいものとして評価する体制を整えていただければうれしいと思いますし，サイトの方たちにしても，私もこの間刈羽に行ってしみじみ感じたんですけど，刈羽の人たちの本当の気持ち伝わってないなと思いましたね。それを私たちもメディアの中でしか刈羽のことを知ることができないという部分がありましたから，私も投票の５月２９日の前の２５日かな，刈羽に行くことになっていたんですが，村の村長さんの，彼直接じゃなかったんですが，明るくする会でしたか，どこかから電話があって，木本さん来ることになって，対話することになっているんだけれども，村長が，村外の方は入らないでほしい，前々日，その３日前ぐらい。それで自分たちが冷静に村の民主主義を守って，正しい選択ができるような時間が欲しい。だから入らないでほしいということで，私はそれは大正解だから，「いいです，伺わないで静かに見守っています」と言ったんですが，やっぱりそれを破って入った方たちがいて，大変扇情的な宣伝をしたということも後で知りました。

それで，そういうことは伝わってこないんですね，だからそれも大変残念な結果だなと思います。その反対がふえたふえないじゃなくて，そういうやり方が伝わってこなかったということなんですよ。それを一緒に考えていくうちに，ああそうか，それはやはり正しい情報が，正確な情報が伝わってこなかったし，それからそれを破ることに意味を感ずるという方もいらっしゃっただろうし，それからもしかしたら，その破って入っていった方たちの方がストレートに伝わったのかなという気もするし，とても難しいな，複雑な気持ちになりました。

だから，どこでどういう形で村の方たちあるいはそのサイトの方たちと話し合いができるかなというのは，これからの課題だと思いますけど，とにかく第一歩を踏み出してやらせていただいて，本当にフランクに，本当に真面目に真っ白でやらせていただきたいと思います。

ですから，これは何らの思惑でやるんではなくて，そこから国策に反映させていくという方法ができるわけですから，大変に私は意義のあることだと思いますし，一から出直し，そういう思いでいます。で，一生懸命やらせていただこうと思いますので，何かお願いと私事を交えた話になりましたけれども，またお目にかかることがたくさんあると思いますが，頑張ってやらせていただきますので，よろしくお願いいたします。本当にありがとうございました。